

11月になり、急に冷え込み、紅葉した葉っぱが散り始めてきました。この寒さで、体調を崩さないように、気を付けて下さいね!!

今月は、2グループに分かれ、その中で“お運びさん” “お客さん” になり練習をしました。帛紗(ふくさ)のつけ方は、以前に教えてもらっていたので、覚えているお友達もいて、先生も感心しておられましたよ! また、お道具の名前を言ったり、「お菓子を運んでくれる人!!」の声に「ハイ!」と積極的にお返事してくれたり・・・と、とてもおけいこを楽しんでいるようでした。次回は、今月のおけいこをもう一度おさらいしてもらおうと思います!

## \*11月のお干菓子\*

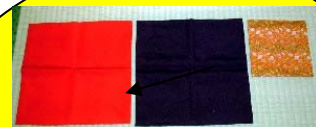


“ふがし” “まつたけ(ゼリー)”

## \*11月のお花\*



- \* みずひき草
- \* ほととぎす
- \* 小菊



### 帛紗(ふくさ)

男の子は紫色、女の子は赤または朱色が基本となっています。



帛紗を三角に折ります。

お茶碗の絵をお客さんの方へ：回しましょう。



お茶どうぞ…



輪を中にして左腰につけます。



かかとに“トン!”とお尻をのせてゆっくり立ちましょう…

## お茶の歴史 (2) 「茶道のはじまり」

お茶が中国から伝わってぜいたくなものとして飲まれていたものを、室町時代に村田珠光という人が、禅宗の精神にそった簡素で落ち着いた四畳半の狭い草庵での茶(わび茶)を考え出されました。それを茶道として確立させたのが千利休と云う人です。

千利休が「和・敬・清・寂」の目標を立てたお茶の心は、裏千家16代家元の現在に至るまで脈々として引き継がれています。

子供たちと一緒にお茶のおけいこを通して、少しでも“和敬清寂”のお茶の心を学び、きれいな気持ちで暮らしたいものです。